

## 2021 年度 Seinan Millennial Project 成果報告書

取組名称	KARDIANOIA 模擬入管
取組責任者	22AD053 楊懿之 (文学部仏語専攻 4 年)
取組担当者	<p>23AG044 柳達希 (商学部経営学科 3 年)</p> <p>23AG129 福田武之 (商学部経営学科 3 年)</p> <p>24AM006 上野大我 (法学部国際関係法学科 2 年)</p> <p>24AM023 武本倅奈 (法学部国際関係法学科 2 年)</p> <p>25AA008 西地美咲 (神学部神学科 1 年)</p> <p>25AE259 松山なごみ (外国語学部外国語学科 1 年)</p> <p>25AM002 井手菜々子 (法学部国際関係法学科 1 年)</p> <p>25AM003 今林夏樹 (法学部国際関係法学科 1 年)</p> <p>25AM005 岡菜々美 (法学部国際関係法学科 1 年)</p> <p>25AM024 武田和か (法学部国際関係法学科 1 年)</p> <p>25AM026 中島璃子 (法学部国際関係法学科 1 年)</p>



## 1. 取組みの概要、および活動内容

## &lt;概要&gt;

5W1H (who, where, when, what, why, how) を意識し、200~300 字程度で記入してください。

本活動は、日本を取り巻く入国管理・難民問題について学習する。①「耳を傾ける」②「人の痛みを知る」③「人の心に寄り添う」④「人の痛みを伝える」ということをこの企画の念頭に置き、入国管理・難民問題について学生が主体的に学び、そこで得た知識をもとに発表会・講演会、メディア発信、体験シミュレーションを考案・実施することで本企画に参加する学生だけでなく地域社会をも巻き込みながら「国境の狭間に置かれた人々」が抱える問題に向き合い発信していく。

前期には知識のインプット（①「耳を傾ける」②「知る」）を意識し、グループに分かれそれぞれテーマを定め、調べ学習を進めた。また、外部講師（竹内行政書士）をお呼びして入管訪問の事前準備を行った。後期には、前期で蓄えた知識のアウトプット（③「寄り添う」・④「伝える」）を意識した。シミュレーションの作成および実施や講演会の開催を通して私たちが体験した入管での出来事、前期学んだことをより多くの人に知り、考えていただくきっかけづくりを行った。

また、竹内行政書士のご指導のもと入管訪問を行い、被収容者の生の声を聞くことができた。

## &lt;活動内容&gt;

経費の有無に関わらず、本取組の活動内容を時系列で記入してください。

4月→自己紹介、今後の進め方（30日）

5月→申請書の作成の役割分担（7日）、申請書作成・各自作業（12日）、申請書最終確認・提出（21日）、会合（19日、25日）、グループ①中間報告（28日）

6月→会合（3日、10日、17日、24日）、グループ②中間報告（4日）、グループ③中間報告（11日）、グループ①最終報告（18日）、グループ②最終報告（25日）

7月→会合（1日、8日、12日、13日、15日）、グループ③最終報告（2日）、報告成果発信（9日）、訪問事前研修（16日）

8月→会合（1日、2日、3日、4日、7日、8日、9日、10日、16日、18日、22日、29日）

小宮様との打ち合わせ（24日）

9月→会合（1日、2日、5日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、15日、19日、20日、21日、22日、23日、25日、26日、27日、28日）

10月→会合（2日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、26日、27日、28日、29日、30日、31日）、大村入国管理センター訪問（25日）

11月→会合（1日、8日、15日、16日、22日、29日）、難民申請・入管面談シミュレーション（3日）

12月→会合（4日、13日、15日）、講演会（18日）

1月→振り返り（12日、28日）

2月→振り返り（2日）

## 2. 得られた成果

### <申請当初の目的・計画の達成度>

#### (1) 概ね達成したと考える。

前期では、個々がほとんど知識をもたない状態であったが、グループで調べ学習を進め、知識を共有し合うことで、シミュレーションの作成において、外部講師の方と詳しい内容について意見交換ができる状態までになり、新たなシミュレーションを完成させることができた。また、実際に大村入管センターへの訪問も実現し、入管のリアルを感じることができ、収容者の方に寄り添う経験を得た。

#### (2) 概ね達成したと考える。

大村入管センターを訪問し寄り添う体験や調べ学習での知識を得た上で、シミュレーションの作成および実施や講演会の開催を行い、大学を越えた地域社会に伝えることができたと思います。

#### (3) 概ね達成したと考える。

シミュレーションの作成の際には、さまざまな文献を読み、外部講師の方のご指導を受けながら、虚偽の設定や偏見が生まれないように留意しながら作成を進めることができた。

### <優れた成果があがった点>

活動を通して特に成果があがったと感じた点について記入してください。

活動を通して、入国管理・難民問題について参加者が身近な問題であることを実感し、自分たちに何ができるのかを考える姿勢を持てたことである。これらの問題に向き合い、扱っていく上での責任感をもち、新たなシミュレーションを作成を実現できたことは大きな成果だと感じている。

また、今年度の私たちが企画したシミュレーションに参加してくださった方が、次年度のKARDIANOIAの模擬入管に参加してくださったことである。今回の私たちの活動が、誰かの行動に移すきっかけになれたことも成果を感じた点である。

### 3. その他

実際に取り組んでみた感想や今後取り組んでいきたいことなど、自由に記入してください。

学部や学年を越えたメンバーが集い、入国管理や難民問題について学びを進め、シミュレーションや講演会などのイベントを実施し、高校生から大人の方にまでこの問題を考えるきっかけをつくれたことは、とても有意義な経験となった。

来年度は新メンバーと共により多くの人に興味、関心を持っていただけるよう自分たちなりに知識を蓄えて、還元していきたいと思う。